



松山女子高同窓会報

埼玉県立松山女子高等学校 〒355-0026 埼玉県東松山市和泉町2番22号



昭和30年当時
正門からの風景



2025年 松山女子高校は
創立百周年を迎えます！

埼玉県立松山女子高等学校校歌

作詩 浅野光良
作曲 高木東六

1. 富士の高嶺 望む丘よ
青垣秩父 はるかに見はるかす
いみじき場よ わが学び舎よ
ああ われら われら乙女ぞ
若き力を 今ぞそそぎて
天分伸ばし 知性を高め
真理究めむ いぎ いぎ 共に
2. みどり匂ふ 松の里よ
箭弓の杜辺 きよらに規模広く
開けし場よ わが学び舎よ
ああ われら われら乙女ぞ
若き血潮を 今ぞたぎらし
身魂鍛へ 技術を練りて
道を究めむ いぎ いぎ 共に
3. 都幾の流れ 時じくによ
松のみどりの うるはしとことばに
栄ゆく場よ わが学び舎よ
ああ われら われら乙女ぞ
若き生命を 今ぞかたむけ
情操磨き 婦徳を修め
法を究めむ いぎ いぎ 共に

(昭和二十七年四月制定)

百周年へ



第1回卒業式（昭和4年）

伝統の優美 ^{とき}時代の華 ^{はな}
 学び競いて ^{ふとく}婦徳を高め
 凜として輝く 女子校の雄

松 女



埼玉県松山実科高等女学校1回生（大正15年・松女創立）

立志



昭和13年の卒業アルバムより



現在の制服（昭和59年から夏服もセーラー服に）



夕映えの中の3本松



校歌発表会(昭和27年)

母校創立



「凜として輝く」

埼玉県立松山女子高等学校
創立百周年実行委員会 及川 三栄子

卒業して40年、校長として、再び母校に赴いた初日、学び舎からは生徒たちの明るい声が聞こえ、同時に数々の思い出が蘇り、感動と共に重責に身の引き締まる思いでした。この地で学び続けた先輩方の思いに向き合い、その声に耳を傾け、生徒に伝えること、それが課された責務、と意は固まりました。

ある日、同窓会の書庫で卒業アルバムの一冊を開いた瞬間、それは現実のものとなりました。一人一人の先輩方の輝かしい生きる姿がそこにあったのです。百周年を迎える今、この歴史に生命を吹き込み、時代を超え、地域に支えられ学び続ける生



私が本校に入学したのは昭和25年でした。

一年上の学年は昭和21年に女学校に入学した人と、昭和24年戦後初めて行われた高校入試により入学した生徒からなっていました。

私の在学中に生徒の制服と校歌が作られ、校歌の発表は盛大に行われました。

昭和28年卒業 溝井喜久子



青垣 創刊号(昭和26年)

徒が輝き、ひいては母校発展に期する大きな節目となります。松女の100年の月日を、確固たる存在として後世に輝かせるために、多くの方々のご協力を賜り、記念事業準備を進めて参ります。「伝統の優美、時代の華、学び競いて婦徳を高め、凜として輝く女子校の雄、松女」



百歳を越える人が年々増え続ける今、その先駆けのごと母校は開校百周年を迎えます。

卒業して早、六十二年も経ってしまいました。松女の記事には素早く目がゆき後輩たちの活躍を知るのには大いなる誇りとなっています。さらなる飛躍を期待しております。

昭和36年卒業 内藤昌子



同窓生の皆様こんにちは。私は90周年の時、PTA会長を務めさせていただいた縁でお世話になることになりました。

記念事業として何をするのか。まだ、具体的には決まっております。ま「凜として輝く」次代の100年へと繋ぐため、皆様とともに考え実行していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

後援会顧問(記念事業部会) 島野 知二



仕事ではベテランと呼ばれるようになり、立ち上がるにはかけ声が必要となりましたが、気持ちはあの自由のびのびと生活ができた松女生のまま。企画から力仕事までこなした経験があったからこそ「今」。

幸せな高校生活を送らせてくれた松女に感謝です!

昭和61年卒業 目時 和枝



同窓会報をご覧の皆様、日頃より松女生の為您ご支援を戴き、生徒たちが各所で活躍出来ていること感謝申し上げます。創立百周年に向けても、生徒たちを想い、準備が進んでいること本当に心強く感じております。松女に関わる全ての皆様が一丸となり幸せを感じる百周年が実施できるよう益々のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和4年度PTA会長(式典部会) 鈴木 啓正



記念誌部会では、開校以降、戦争・敗戦・高度成長期・バブル期と時代が激しく変動する中、凜として輝く松女生、教職員、地域住民の弛まぬ努力の歴史を振り返ると共に、更に百年先に繋がる記念誌の発行に向け取り組んで参ります。

令和3年度後援会長(記念誌部会) 岡村 利之



昭和45年卒業記念「きずな」の像

「困難を乗り越え、創立百周年に向かって」

同窓会長 坂本 祐子



新型コロナウイルスの流行による社会の変化に戸惑いながらの生活が続いております。皆様にはいかがが過ぎでしょうか。波は引いてはまた押し寄せとなかなか終わりが見えません。

この会報の発行も一年遅れとなりましたが、少しずつ進めていた活動の様子をようやくお知らせすることができ、安堵しております。

このような状況の中で、様々な活動が制約を受けました。同窓会の活動も例外ではなく、2021年に行う予定でした総会も延期とし、役員会による仮承認という形をとらせていただきました。(同窓会規約14条)

初めにお知らせするのは、二年後(2025年)に迫った母校の創立百周年に向けての取り組みについてです。地区理事14名による百周年実行委員会が昨年五月から三回にわたりに開かれました。本会では2025年の総会を「同窓会記念総会」として開催する予定ですが、その準備が

同窓会役員名簿

役職 / 氏名 / (卒業年)

顧問

- 秋山 佳子 校長 (昭和四八年)
- 及川三栄子 (昭和三六年)
- 富岡 英子 (昭和三六年)

理事

- 清水 敦子 (昭和三六年)

会長

- 坂本 祐子 (昭和四八年)

副会長

- 菊池 初江 (昭和四四年)
- 會川 淳子 (昭和四八年)
- 岡野美智子 (昭和四八年)
- 松崎恵美子 (昭和四九年)
- 飯島かおる (昭和五四年)

監事

- 柴生田トモエ (昭和四七年)
- 福田 清江 (昭和四七年)

《地区別委員》(地区理事)

- ◎小川 大島 和子 (昭和四三年)
- ◎越生 高野 信子 (昭和四五年)
- ◎川越 坂本 茂子 (昭和四五年)
- 岸野 素子 (昭和四五年)
- 久保田悦子 (昭和四八年)
- 富岡 宏子 (昭和四五年)
- 井上 深雪 (昭和三九年)
- 吉川 昌江 (昭和四八年)
- 小川 益世 (昭和五十年)

◎川島

- 深谷 裕子 (昭和五四年)
- 小島 和江 (昭和四七年)
- 福島 鏡子 (昭和四九年)
- 飯島 弘子 (昭和四六年)
- 松本 廣子 (昭和四七年)
- 吉田 初枝 (昭和四七年)

◎熊谷

- 寺長根真希子 (松女渉外部)
- 高須 美子 (同)

- 森田久美子 (昭和四二年)
- 杉田 茂実 (昭和四七年)
- 坂戸 三宅裕美子 (昭和四五年)
- 根本 淑子 (昭和四八年)
- 内田みどり (昭和五一年)
- 小久保芳子 (昭和四七年)
- 鶴ヶ島 伊藤 早苗 (昭和四五年)
- 滑川 田幡えい子 (昭和五十年)
- 費田 玲子 (昭和四八年)
- ◎ときがわ 赤岩 政枝 (昭和四八年)
- 鬼玉 千春 (昭和五五年)
- ◎鳩山 松本美千代 (昭和四二年)
- ◎柳下万里子 (昭和三九年)
- 長嶋 民江 (昭和四一年)
- 新井千恵子 (昭和四十年)
- 田中喜代子 (昭和三三年)
- 野原 智子 (昭和五一年)
- 田口 京子 (昭和四八年)
- 松本 昌子 (昭和四九年)
- ◎富士見 谷澤 良子 (昭和四二年)
- ◎吉見 石沢八千代 (昭和四四年)
- 新井 和子 (昭和四八年)
- 片山あき子 (昭和四二年)
- 山崎はるみ (昭和四二年)
- ◎寄居 堀口由美子 (昭和四八年)
- ◎嵐山 木村 信子 (昭和四八年)
- 植田 春子 (昭和四八年)
- 松本 理絵 (昭和四五年)

「ご挨拶」

校長 秋山 佳子



同窓会の皆様には、日頃より松山女子高校の教育活動に対してご理解ご協力をいただきましてありがとうございます。母校への深い愛情のもと、多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

令和二年当初より続くコロナ禍は三年以上を経てもまだ収束の目途が立たず厳しい状況が続いています。マスク越しの会話、お喋りをしない黙食の昼休み、急な予定変更を常に意識しながらの日々ですが、それでもウィズコロナの生活様式が定着し、生徒たちが感染対策について具

体的に考え実践することで、少しずつ出来るが増えています。ICTも活用しながら仲間と協働して取り組む授業や探究活動、全員が初めての経験となった限定公開文化祭、新種目に挑戦し応援合戦を復活させた体育祭、幾多の試練を経ながらの部活動。生徒たちは苦しい状況にもしなやかに朗らかに対応し、多くのことを学び、楽しみ、成長しています。東松山市の観光大使に書道部が長年に亘って任命していただいているなど、地域の皆様からの変わりぬ大きな期待を受け、地域での活動の場も再び広がり始めています。

実行委員により進められています。(詳しくは8ページに)

もう一つは、同窓会ホームページのリニューアルについてです。実は二万人近い同窓生に会報をお届けするには多くの費用が必要で、そのため数年に一回の発行になっていました。次回の発行も2026年を予定していますが、これでは「記念総会」についてのお知らせができないという事になります。そこでその間を埋めるために、即時性に優れたホームページをもっと有効に活用することになりました。(詳しくは8ページに)

この原稿を書いている現在はコロナ第八波の真っ最中です。一日も早く収束し、皆様と共に母校の百周年を笑顔で迎えられますことを願っています。

コロナ禍が少しでも落ち着き、松女生徒たちが底力を存分に発揮できる場が今後更に増えるよう、そして同窓会の皆様に生徒たちの活躍を直接見ていただける機会を復活できるように、願ってやみません。

生徒たちが多くの仲間と競い合い励まし合い互いを高めていくこと、文化や歴史、新しい知識や価値観、スポーツや芸術などに出会い学びを深め、多様な経験を通して豊かな心を育むこと、そして松女生の備えるべき、勤勉、勇気、気品、誠実、忍耐、感謝などの資質を伸ばし、諸先輩方から継承された歴史や文化、多くの先輩によって長年にわたり築かれたよき伝統を受け継ぎ、育み、次代へと発展させていくこと。これらを実践的に百周年のその先へ、凛として輝く松女であり続けてまいります。引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。



第2回 同窓生を訪ねて

石田良恵さんを訪ねて

(昭和35年卒 小川町出身 東京都在住)

石田良恵さんは昭和17年生まれの80歳。保健学博士、女子美術大学名誉教授、日本ウエルネススポーツ大学教授。定年退職後登山に目覚め、安全登山のための「山筋ゴーゴー体操」を提案し、全国規模で普及活動や講演、そして高齢者の体力作りを専門になさっています。娘3人、孫6人の母、祖母、パワフルで颯爽とした大先輩から、貴重なお話を聞かせて頂きました。

高校在校時の様子

～部活動に明け暮れた毎日でした～

地元の小川町にも高校は在りましたが当時の松女は陸上・ソフト・テニスなどが全国レベルで強い高校でした。陸上の強い松女に憧れ地元を飛び越しての松女でした。

憧れの陸上部では中学3年時に埼玉県大会で100mと砲丸投げに出場し、専門の100mは負け砲丸投げで優勝しましたので高校も砲丸投げが主でした。顧問の駒井先生のもと部活一色の生活、高校1年生でインターハイに出場できました。修学旅行にも行かず、練習に明け暮れの3年間でした。しかし身長154cmの私は砲丸投げでは全国レベルは無理と思い知らされ、次は少々自信のある足を生かして短距離！と悟りました。

当時の松女生は「おとなしい感じの良妻賢母型」の生徒が多かったように思います。

進学・仕事

～教員をしながら、身体組成の研究に取り組みました～

一度は就職したものの、本気で走りたい、教員免許も取りたいという思いから、進学を決意。国士館大学の特待生として体育学部へ入学し、高校時代の燃焼しきれない悔しい思いをグラウンドにぶつけました。子供の頃から足は速かったので大学では短距離選手として通用。学生大会では常に入賞をしていたため埼玉代表で国体にも数回出場しました。

卒業後は国士館大学体育学部助手を経て、女子美術大学の体育教員になりました。若い時は走ることに専念していたので専門分野の勉強不足を実感し、教員をしながら40歳から東京大学福永哲夫研究グループに所属。当時、最先端だった超音波診断装置を使った身体組成生の研究に入りました。そのため、1989年フロリダ大学の客員教授に迎えられ、トレーニング効果の研究を続けました。

その後50歳で保健学博士を取得。

現在の生活

～山に魅せられ～

定年退職後65歳から始めた登山に目覚め、日本の山々を始め、キリマンジャロ、インドヒマラヤ、ブータンなど各国の山に登りました。日本勤労者山岳連盟の女性委員会の方々から女性の立場から登山のための体づくりについての相談を受け、女性の体力に関する研究を開始。「山筋ゴーゴー体操」を作成。現在は全国で安全登山を目指した筋トレの理論と実技を含む講習会の講師もしています。

愛する後輩の皆様へのメッセージ

長寿社会の中、歳をとっても自立した生活を送るためには筋肉の手入れが不可欠です。筋肉は何歳になっても発達し、トレーニングには年齢制限はありません。筋肉は生きる力です！ 人生100年の現在、健康寿命を延ばし心身の豊かさを維持するために自ら汗を流すことを忘れないでください。

著書紹介



一生、山に登るための体づくり
(マイナビ出版)



上段一番右



部活動紹介

Club Activities

前号から始まったこのコーナー。第2弾の今回は、10部活をご紹介します。

どの部活にお邪魔しても、担当二人、「爽やかでしたね」「パワーをいただきましたね」と、心満たされて引き上げてきました。礼儀正しさ、明るい笑顔。部活動に一生懸命取り組む姿勢。素敵です。

取材にあたり、各先生方、各部のみなさんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

ソフトボール部

グラウンドに響く最上級の挨拶に、暑さが一瞬で消えました。大会直後の先輩は、素晴らしい結果にも少し悔しさをにじませ、「後輩たちには『心で戦う』ことを伝えたい」「インターハイ出場を目指し、力を出し切って戦ってほしい」と語ります。熱い練習風景を見守りながら感動です。

環境や、周囲の人たちに対する感謝の思いは、自慢の「挨拶の声」とともに、ソフト部マインドとして受け継がれていくでしょう。

写真を撮る時の集合の速さ、そして掛け声の「よし!」には、鳥肌が立ちました。



茶道部

茶室に何気なく飾られた花が、茶道の奥深さを語っています。茶を点てるだけではなく、茶器や花を愛でること、和菓子を楽しむこと、茶会での人とのふれあい。すべてを含めて茶道なのだとの弁には感服。真剣な練習風景に、日本文化の重みを感じる幸せを垣間見ました。

「仲の良さと、所作の美しさは自慢です」と微笑む、総勢二十八名の茶人たちの目標は、文化祭の成功と、茶道の道を究めること。他校の先生にも褒められるという、美しい所作の原点を、ぜひ拝見したいですね。



文芸部

部のスローガンは「創作意欲! 締切厳守! 目指せ全国!」。各種コンクール、中でも、全国文芸コンクールの頂点を目指す十五名の部員たちは、とにかく個性豊か。雑学量も自慢です。「ゆかり」等、年3誌発行される部誌も読んでみたいですね。「書くことの面白さは、何気ない日常やリメイクの新たな発見を、形にして知ってもらおう」と語る彼女たちの毎日はずっと、豊かな言葉で彩られているでしょう。写真撮影の背景には、黒板に書かれた俳句の数々には惹きこまれました。

部のスローガンは「創作意欲! 締切厳守! 目指せ全国!」。各種コンクール、中でも、全国文芸コンクールの頂点を目指す十五名の部員たちは、とにかく個性豊か。雑学量も自慢です。「書くことの面白さは、何気ない日常やリメイクの新たな発見を、形にして知ってもらおう」と語る彼女たちの毎日はずっと、豊かな言葉で彩られているでしょう。写真撮影の背景には、黒板に書かれた俳句の数々には惹きこまれました。



パソコン部

アナログ世代には少し敷居が高いパソコン部は、部員総数五十二名の大所帯。活動日は週一、金曜日のみですが、自慢は「集中心力」。そして「将来役立つ技術の習得」です。

「百周年：伝統の重みを感じます」としみじみ。「パソコンの面白さはスキルアップの実感ですね。一人一人の成長は部の目標です」とまっすぐな目で語る彼女たちこそ、これからの百年の担い手なのかもしれません。「パソコン部あるある?」パスワードを忘れる! という回答には笑ってしまいました。



美術部

美術室にお邪魔すると、三十九名の部員のみなさんが、文化祭アーチ作りの話し合いの真っ最中。

個人制作のイメージがありましたが、箭弓神社に奉納する大絵馬作りなど、共同制作も主軸なのだとか。もちろん、高校美術展等、各展覧会や文化祭に向けても精力的に取り組んでいます。それぞれ手にした作品の数々：圧倒されました。つくる魅力は「自分磨き」「チャレンジ」。等身大の作品は、さらに大きく見えました。

「個性的なメンバー」が、「一年を通して活発な活動」で生み出す作品に会える文化祭が楽しみです。



「母校百周年・同窓会記念総会」開催のお知らせ

母校が2025年に創立百周年を迎えることを記念し、同窓会の記念総会を同年秋に開催します。同窓生が一堂に会し、祝う気持ちを共有したいと思います。

つきましては、参加してみようと思う方(現時点のお気持ちで結構です)は、同封の【記念総会参加希望】のハガキをご投函ください。会場決定の参考にしますのでぜひご協力をお願いします。

現在、実行委員が具体的な計画を立てているところですが、おおよその流れとしては、第1部 総会 第2部 記念アトラクション(同窓生による演奏会 等)、午後1時開始、5時終了予定となっています。また、会場では歴史を振り返る展示会(写真・思い出の品 等)を同時に開催します。詳細が決まり次第、リニューアルした同窓会のホームページ等でお知らせします。お楽しみにお待ちください。

「ホームページリニューアル」のお知らせ

ホームページをリニューアルしました。同窓会の活動報告のみでなく、同窓生の活躍の様子、興味関心の高い話題の特集、同窓生文化祭、母校の今、等、皆様により身近な内容をお届けしたいと考えています。会報では載せきれなかった事柄を紹介していけたらと思います。より充実したものにしていいため、ぜひご意見ご要望をお寄せください。どうぞよろしく願い致します。

松山女子高校同窓会・ホームページは
アドレス matsujodousoukai2023.com

サポート
スタッフを
募集します

リニューアルにあたり、お手伝いいただける方を募集します。広報活動に興味のある方、ぜひ一緒に活動してみませんか。ご連絡をお待ちしています。(下記連絡先まで)

令和5年度
同窓会総会開催のお知らせ

日時 7月16日(日)午後1時30分～(1時受付開始)
場所 紫雲閣
※出席を希望される方は地区理事さん、もしくは下記の連絡先までお知らせください。

寄付のお願い

平素は同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

創立百周年を迎えるにあたり、本会では母校へのさらなる支援と、会の活動の充実発展のため、皆様の温かいご芳志を募りたいと存じます。どうか多くの皆様のご賛同を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。(同封別紙をご覧ください)

連絡先

同窓会専用携帯電話 090-3406-0251 E-mail matsujo.og@docomo.ne.jp

編集後記

コロナ禍、三年あまりの社会の変化には驚かばかりですが、松山女子高校は、まもなく創立百周年を迎えます。あらためて歴史の重みと、自分が卒業生の一人であることに、誇りと感動を感じます。

そして、微力ではありますが、会報発行という形で、その歴史に関わることができたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、取材する中で、現役の松女生、また、卒業生の方々のご活躍に触れ、たくさんのパワーをいただきました。昔も、今も、いつまでも、松女生ってすてきです。輝いています。

大きな絆の輪で、百周年という節目が、すべての同窓生の心に残るものになることを願っています。

編集委員

森屋多美子
田島 千晶
安藤 奈々
坂本 祐子

表紙題字

飯島かおる